

2022年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン1											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	西川進			実務経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
編曲やトラック制作をする際の「フレーズの作り方」に関して学びます。編曲やトラック制作をする際の「フレーズの作り方」に関して学びます。外部企業と提携し、楽曲制作に必要なジャンルや楽器の和声や旋律、音作りを生徒が主体的に考え、不明点を生徒自身で模索し、完成できるよう学習していきます。また、ミックスの知識を得ることでより本格的な音源に仕上げる方法を学習します。書籍「決定版 音楽理論ワークブック ポピュラー音楽を完全理解」を使用しながら、より高度な音楽理論を学び理解を深める。反復し問題を解くことで基本的な音楽理論の知識を確実なものとする。											
到達目標											
いかなるコード進行やリズムパターンにおいても、的確かつオリジナリティーのあるフレーズを構築出来ること。STEAM学習方針を取り入れ、創造の基盤となる総合的な知識や経験力を身につける。いかなるコード進行やリズムパターンにおいても、的確かつオリジナリティーのあるフレーズを構築出来ること。STEAM学習方針を取り入れ、創造の基盤となる総合的な知識や経験力を身につける。様々な音楽ジャンルを理解し、依頼されたテーマに基づく楽曲を制作できる技術を習得する。自身の楽曲に対するプレゼンテーションが行える。流通媒体に合わせた音量調整や納品形態を理解、実現できる。イコライザー、コンプレッサーといったエフェクトを理解し、デモ音源から製品レベルまでの音源クオリティを学び、自身でミキシングできる技術を習得する。音楽家として、特に作曲に必要なとなる音楽理論を理解し、楽曲を制作する際においてその知識を作品に生かすことができるようになる。											
授業方法											
毎週違った「推薦曲」のフレージング分析。多種多様なコード進行、スケール、リズムパターンにおいてのフレーズ作りを、教室のDAWにて実際に体験してもらう。西川進オリジナル作品のステムを使い、各楽器のフレージングのこつを学び、作品を完成させる。毎週違った「推薦曲」のフレージング分析。多種多様なコード進行、スケール、リズムパターンにおいてのフレーズ作りを、教室のDAWにて実際に体験してもらう。西川進オリジナル作品のステムを使い、各楽器のフレージングのこつを学び、作品を完成させる。指示されたテーマに関する音楽のジャンルや楽器の選別を行い、雰囲気を考え（例：スパイ映画風、ヒーリング映像、闊うシーン）、どう楽曲を演出するかを分析する。全体での講義と各自の制作時間を設け、各々の修練度に見合ったアドバイスを各講師が行っていく。様々なジャンル、ロックやジャズ、ボサノヴァ、エレクトロ、和風、劇伴、ゲーム音楽などの特徴を考え、時には融合することで現在のニーズに合う楽曲を紹介、分析する。エフェクトの効果を実際に体験し、変化の聞き分けや折り重なる楽器との調和を試みる。音楽理論ワークブックで学習し、項目末にある問題を解くことで理解を深める。学習時にはピアノなどの楽器で音を出して理論を体感づけるようにする。											
成績評価方法											
試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
西川進オリジナル教材を使う。西川進オリジナル教材を使う。適時、講師より教材を配布する。ヘッドホン、6.3mmステレオ標準変換アダプター、SSDやUSBメモリ等の記録媒体を持参すること。また自身のPCを持ち込むことも可。書籍「決定版 音楽理論ワークブック ポピュラー音楽を完全理解」を使用する。各自、筆記用具やノートと共に持参すること。											
回数	授業計画										
第1回	自己紹介。各自自己紹介。各自の将来の目標などリサーチ。授業の概要説明。DAWの基本的な使い方。Googleを使ったデータ送信方。課題発表の際、本名を使うかアバターネームを使うか説明。質問の送り方。C⇒F⇒G⇒Cのコード進行におけるフレージング。自己紹介。各自の将来の目標などリサーチ。授業の概要説明。DAWの基本的な使い方。Googleを使ったデータ送信方。課題発表の際、本名を使うかアバターネームを使うか説明。質問の送り方。C⇒F⇒G⇒Cのコード進行におけるフレージング。"楽曲の流通具合、人気のジャンル紹介。テーマに沿った楽曲イメージを調査しまとめる。データの管理方法やDAW操作の基本を学ぶ。" 音部記号、音名 ワークブック 12～18										
第2回	Am7⇒F△7⇒G⇒Cのコード進行におけるフレージング。課題曲「stay positive」におけるフレージング。Am7⇒F△7⇒G⇒Cのコード進行におけるフレージング。課題曲「stay positive」におけるフレージング。楽曲制作01：必要な楽器の選別やジャンル、リズムやテンポといった楽曲の大まかな雰囲気をイメージする。DAW操作の基本を学ぶ。音程 度数、長短音程 ワークブック 19～30p										
第3回	F△7⇒C⇒G⇒Am7のコード進行におけるフレージング。課題曲「stay positive」におけるフレージング。F△7⇒C⇒G⇒Am7のコード進行におけるフレージング。課題曲「stay positive」におけるフレージング。楽曲制作02：大まかな楽曲の全体像の把握、セクションをイメージする。楽曲の骨組みを考える。DAW操作の基本を学ぶ。音程 完全、増減音程 ワークブック 19～30p										

2022年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン1	
第4回	F ⇒ G ⇒ Em ⇒ Am のコード進行におけるフレージング。 課題曲「stay positive」におけるフレージング。F ⇒ G ⇒ Em ⇒ Am のコード進行におけるフレージング。 課題曲「stay positive」におけるフレージング。楽曲制作03：リズムパート（ドラムやベース）パターンをリファレンスし、再現したりアレンジして各自の楽曲に反映させる。音程 複音程、転回音程 ワークブック 19～30p
第5回	Am7 ⇒ FΔ7 Am ⇒ Em ⇒ F ⇒ G のコード進行におけるフレージング。 課題曲「stay positive」におけるフレージング。“楽曲制作05：ウワモノの入力。楽曲のキーやコード進行を考え入力する。なお、各々の作曲方法により02～05は順不同となる。” “ 短音階と調号 ワークブック 31～46p
第6回	F ⇒ G ⇒ E7 ⇒ Am のコード進行におけるフレージング。 課題曲「キセキ」におけるフレージング。F ⇒ G ⇒ E7 ⇒ Am のコード進行におけるフレージング。 課題曲「キセキ」におけるフレージング。楽曲制作06：制作を継続。全体のバランスを考えながら楽器の配置や演出を考える。 “ 関係調と五度圏 ワークブック 31～46p
第7回	F ⇒ G ⇒ E7 ベースラインが降りていくパターン C ⇒ G/B ⇒ Am ⇒ G F ⇒ C/E ⇒ Dm ⇒ G のコード進行におけるフレージング。 課題曲「キセキ」におけるフレージング。中間確認。この段階でラフなデモ音源が完成できるよう制作を進める。書き出し音量とファイル形式について。Google classroomでの提出方法。コードの構成 3和音 ワークブック 48～68p
第8回	ベースラインが降りていくパターン C ⇒ G/B ⇒ Am ⇒ G F ⇒ C/E ⇒ Dm ⇒ G のコード進行におけるフレージング。 課題曲「キセキ」におけるフレージング。中間確認。この段階でラフなデモ音源が完成できるよう制作を進める。書き出し音量とファイル形式について。Google classroomでの提出方法。コードの構成 3和音 ワークブック 48～68p
第9回	ベースラインが半音で降りていくパターン（メジャーコードのクリシェ）C ⇒ G/B ⇒ Gm/Bb ⇒ F/A Fm/Ab ⇒ C/G ⇒ D/F# ⇒ G のコード進行におけるフレージング。 課題曲「キセキ」におけるフレージング。ベースラインが半音で降りていくパターン（メジャーコードのクリシェ）C ⇒ G/B ⇒ Gm/Bb ⇒ F/A Fm/Ab ⇒ C/G ⇒ D/F# ⇒ G のコード進行におけるフレージング。 課題曲「キセキ」におけるフレージング。楽曲制作07：各楽器パートのブラッシュアップを行う。楽曲イメージに合わせた楽器の演奏方法を模索する。コードの構成 4和音 ワークブック 48～68p
第10回	Amからベース音が降りるパターン（マイナーコードのクリシェ）Am ⇒ AmM7/G# ⇒ Am/G ⇒ F#m7-5 Am ⇒ E/G# ⇒ G6 (Gm6) ⇒ D/F#のコード進行におけるフレージング。 課題曲「キセキ」におけるフレージング。Amからベース音が降りるパターン（マイナーコードのクリシェ）Am ⇒ AmM7/G# ⇒ Am/G ⇒ F#m7-5 Am ⇒ E/G# ⇒ G6 (Gm6) ⇒ D/F#のコード進行におけるフレージング。 課題曲「キセキ」におけるフレージング。楽曲制作08：制作を継続。各楽器のパンニングを理解し配置する。空間系エフェクトを使用し臨場感を表現する。コードのまとめ ワークブック 48～68p
第11回	C ⇒ Bm7-5 EC ⇒ Bm7-5 E7 ⇒ Am のコード進行におけるフレージング。 課題曲「Break it out」におけるフレージング。C ⇒ Bm7-5 E7 ⇒ Am のコード進行におけるフレージング。 課題曲「Break it out」におけるフレージング。楽曲制作09：ミキシング。リズム隊の音量バランスを考える。リファレンス検索。／EQとは。またその使用法。長音階上の和音 ワークブック 84～102p
第12回	C ⇒ E♭dim ⇒ Dm ⇒ G のコード進行におけるフレージング。 課題曲「Break it out」におけるフレージング。C ⇒ E♭dim ⇒ Dm ⇒ G のコード進行におけるフレージング。 課題曲「Break it out」におけるフレージング。楽曲制作10：ミキシング。リズム隊に対するメインパートの音量バランス。またウワモノのバランスを考える。／コンプレッサー、チャンネルストリップとは。またその使用法。 “ 主要和音 ワークブック 84～102p
第13回	サブドミナントマイナーを使うパターン C ⇒ Fm ⇒ C ⇒ Fm のコード進行におけるフレージング。 課題曲「Break it out」におけるフレージング。サブドミナントマイナーを使うパターン C ⇒ Fm ⇒ C ⇒ Fm のコード進行におけるフレージング。 課題曲「Break it out」におけるフレージング。楽曲制作11：ミキシング。リファレンスと比較し全体調整を行う。／オートメーションとは。 “ 終止形 ワークブック 84～102p
第14回	テンションを使ったコード進行 FΔ7 ⇒ Eaug ⇒ Am7 ⇒ D7 のコード進行におけるフレージング。 課題曲「Break it out」におけるフレージング。テンションを使ったコード進行 FΔ7 ⇒ Eaug ⇒ Am7 ⇒ D7 のコード進行におけるフレージング。 課題曲「Break it out」におけるフレージング。楽曲制作12：ミキシング。最終工程を行う。書き出し形式やファイル名について。／リミッター、マスターエフェクト、ラウドネスについて。長調でのセカンダリードミナントコード ワークブック
第15回	C ⇒ A♭ ⇒ B♭ ⇒ C のコード進行におけるフレージング。前期課題発表会。C ⇒ A♭ ⇒ B♭ ⇒ C のコード進行におけるフレージング。前期課題発表会。楽曲提出。授業内発表とプレゼンテーション、前期のまとめ。長調でのセカンダリードミナントコード ワークブック 132～139p